♡参加リポート♡

by 寺前美加

みつけよう！‘ファシリテーターのたからもの’

パネルディスカッションとワークショップ

【日時】2004年2月28日（土）10：00～16：30
【場所】大阪社会福祉指導センター
【主催】（財）大阪府人権協会人権啓発部

世の中、意外な展開が…？！

経団連が二大政党時代を前提に自民党と民主党のマニュフェストを評価して、どちらに献金すればいいか検討材料にしているという。
一方でもっと草の根の部分で参加型手法の有効性に気づき始めている企業も急増していきそうで…。「参加型なグループ」が一大勢力になる日も案外近いかも知れない。そのことをちょっと意識できた研修でした。

大阪のノリやった！

午後からの３つに分かれてのワークショップには残念ながら参加できませんでしたが、午前中の様子だけ少しご報告いたします。
時間ギリギリに会場に着くと小学校の教室ぐらいの広さの会場はすでに80人ぐらいの参加者がせせこましく座って談笑しており、熱気ムンムン。参加者は今年度と前年度に行われた（財）大阪府人権協会主催の「ファシリテーター　チャレンジ講座」修了者が多そうで、既に顔見知り同志かその知人の集まりといった雰囲気で全くの‘一見さん’は私ぐらいだったのかもしれません。大阪という土地柄ゆえか、ファシリテーターの集まりゆえか、最初からノリが違う！いきなり盛り上がってる！発言者の言葉への食いつきが非常に良い。すぐウケる。皆さんワークショップやそれぞれの現場で苦労してるからこそなのかもしれませんが…。
前半の一時間はお決まりのアイスブレーキングの後、前述の講座の卒業生たちによってファシリテーターが参考にしたい「おお！」と思えるような短い言葉100個が順番に述べられていきました。（別紙参照）そのなかから私が「おお！」と思ったのを拾うと「愛は行動に移されるまで愛とは言えない」「説教より共感」「自分の感性ぐらい自分で守れ」「難しいことを難しく伝えるのは簡単、難しいことをわかりやすく伝えることは難しい」「すべての人は豊かな経験、知識、アイデア、パワーを持っている」「今イメージできることはかなう（可能な）ことである」「沈黙という文体（参加者の沈黙もひとつの自己表現である）」などなど…。
後半は金香百合さん、森実さん、中野民夫さんによるパネルディスカッション。根にあるものは共通してるものの、どちらかというと「教材中心主義」を自負する森さんと「哲学」中心主義の金さん、中野さんという構図のもと、歯切れのよいやり取りで最後まで会場を沸かせてました。

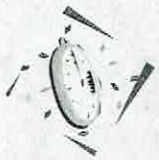
当日のスケジュール

10：00～12：10
発表・パネルデスカッション
・会場の皆でアイスブレーキング
・森実氏から冒頭メッセージ
・チャレンジ講座メンバーが順番に受講の感想など
・メンバーより「１００の言葉」の発表
・参加者全員が「１００の言葉」の中から印象に残った言葉やメッセージや質問事項を紙に書き、それを壁に全部貼り出す。
・休憩
・質問事項への回答など…
・金香百合さん、中野民夫さん、森実さんによるディカッション
・まとめ
12：10～13：30昼休み
13：30～16：30
ワークショップ「アクティビティを味わいつくそう」
・３つの講座受講生オリジナルのワークショップ
参加者はどれか希望のものを体験する。それぞれの講座に助言者として午前中のパネラーも入る。

参加者全員の感想や質問が左右と後ろの壁面やガラス窓にびっしり貼られていった。会場の飾りに風船や、発表者の内容説明などに仕掛け絵本風や紙芝居風の自作物を駆使。保育園や幼稚園の先生とかならこういうの得意だろうな…。

たこ・たぬき

この日のアイスブレーキングでやったゲーム。隣の人とペアになり握手。（左か右同じ方の手で握り合う）どちらかがタコ、もう一方がタヌキになる。進行役が「タタタタ…タコ！」と言ったらタコの人は握った相手の甲を握っていない方の手ですばやくバシッ！叩かれる方はそれを握っていない方の手で防御。叩くよりも相手の防御が早かったら叩けない。「タタタタ…タヌキ！」と言われたらタヌキの人が相手をバシッ！タコの人は、それをうまく防げるか？！反射神経が試されるかも。「タタタタ…」の後に必ずしもタコかタヌキを言うと限らない。「タタタタ…タコ焼き！」と言ったのにタコの人が叩いたらアウト。「タタタタ…たいやき！」「タタタタ…たいくつ」何が出てくるかわからないので結構ドキドキ。



午後からのメニュー。

○「私、けっこんすんねん！」
○「わたしの未来予想図」
○「ちょこっとディベート」

ホントはこっちに参加できたらよかったんだけど。

参加型の生き方をしよう。めっちゃ偏ってても いいから。

私は3人の中では特に中野民夫さんに共感。（というか森さん、金さんが偉人たちの理論を持ち出して説明することがよく理解できなかった、というのが正直なところかも）以下に中野さんの発言をメインに森さん、金さんのレジュメの言葉を加味して考えた、自分たちの今後のあり方について思ったことを少し記しておきたいと思います。

中野さんが前に立って話している姿から「この人はファシリテーター、ワークショップの本質を地でいっている」という気がしました。こちら参加者と同じ目線、同じ高さだなあ、と。ステキな存在感はある（いつの時代にもいた、アートや社会現象の仕掛け人の一人といった感じ）けど、一段上からスポットライトを浴びつつ見下ろしてる風ではなくて、むしろ地味で。
中野さんは自称‘ワークショップ企画プロデューサー＆会社員’とのことです。以前から‘週末ファシリテーター’として会社が休みの土・日にワークショップをしに行くということを続けていたそうですが、最近では勤めている会社や他の会社にも、そういう活動が理解されだして、その手法で社内で‘社会貢献’といった部門などを担当するようになったということです。企業というのは、一度有効とわかると「こんなに急速に広まっていいのか」と怖くなるほど普及が早いんだそうです。
このことを聞いて、例えば去年夏に「ひーとびーとの森」で夏遊びイベントを基金のお金で開催したようなこと—企業や民間団体との協働・連動の可能性が目の前に広がるような気がして楽しくなってきました。つきあう上でのそれなりの留意点はあるのでしょうけど…。
中野さんは自称の肩書きが示すように、ファシリテーターというよりはコーディネーターであるとのことですが、ワークショップをやりに行く運営体としては、誰でも本来そうあるべきなんじゃないでしょうか。司会進行役としてのファシリテーターは極端な話、当日の参加者の中から抽選か何かで決めてもいいぐらいかもしれない。ファシリテーターとしての技を磨いておくに越したことはないが、上手い下手はあまりたいしたことではないように思います。中野さんも「まとまりよく終わった」「盛大だった」というのが成功とは限らない、と言っていたし…。
それよりも日頃から、どれだけ実現させたいことを思い描いているか、小さなことでもいいから取り組んでいるか、にかかっているのではないでしょうか。例えば、場所確保などで苦労しつつも、子どもも大人も遊べる森づくりをしていること。博物館で有償でガイドを引き受けていることetc. まちづくりやモノづくりや…思いつくままに絵コンテ、デザイン画、シナリオ、メモ書き…を書き溜めておくのもいいかもしれなません。それから何より自分たちが、些細なことでいいから何か一つはワークショップの手法で合意形成して実際の運営をしていること、で説得力を持つことになると思います。
平和集会・デモ行進も準備段階から本番までワークショップでやるとか…。「自分にできないことは他人に要求しない」（金香百合）ってもんです。
私はつい最近まで、21世紀型グループであるNPOは、あまり旗色を鮮明にせず、無色無臭なのがイイんだと思っていたけれど、どうもそうでもないことにやっと気が付きました。むしろ少々どぎつい指向性があったほうがいいかもしれない。ただ「ファシリテーターも方向性やメッセージは持っているが、そこへ連れていこうとするのではなく、参加者から引き出そうとすることによってメッセージがより豊かに膨らんでいく」（森実）…ここが、従来の運動のやり方と違う所なんだと思います。